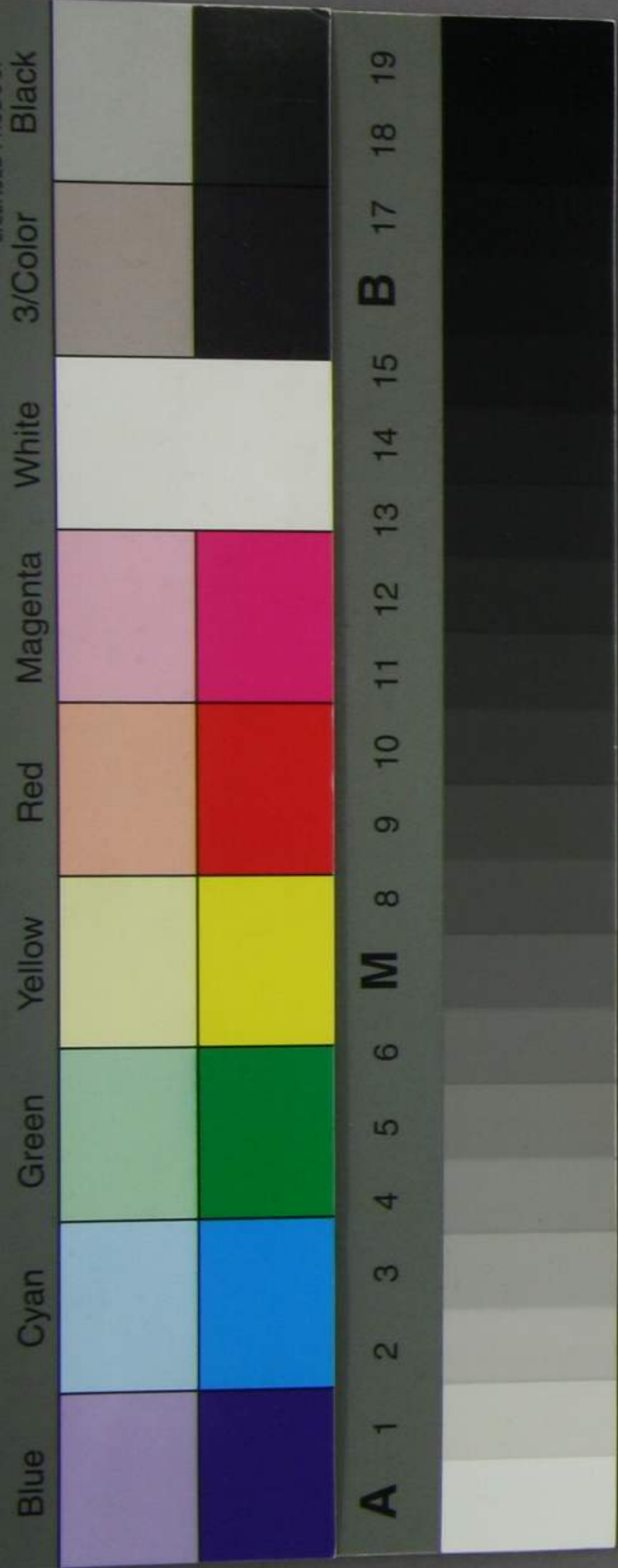


114
A 2958



王政復古以來海外交際愈々盛大ニシテ文化
 日々新ニ西陸東夷普ク徳澤ニ浴シ賢愚
 各其器ヲ尽ス今此時ニ當テ豈沈黙シテ以
 テ愚意ヲ陳述セサルヲ得ン既ニ微臣米洲ニ
 航海ノ術ヲ學テヨリ爾來渺茫タル大洋
 シ棲栖トシテ漂漾スルノ數年未タ其技
 シ以テ寸功ヲ奏スルノヲ得ス是レ日夜恐
 懼スル所ナリ今僥ラ歐米諸洲ヲ推考ス
 ルニ各港ニ水火夫ノ為ニ設ケタル學校
 及ヒ教ヲ施スル所ヲ建テリ假令ハ英國
 ニテハ水火夫ノ「コンヂー」并ニ「セミナレースクール」
 又和蘭ニテハ「セーマニスホープ」及ヒ「クウエーキス」

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈



コト^ルノ如キアリ何レモ公私二科ノ會社
アサテ各教師ヲ置キ水火夫「コレデー」並ニ
「クウエーキスクール」セミナレースクールハ幼稚ヲシ
テ水火ノ技藝ヲ慣習セシメ「セーマンスホー
プ」ハ壯年ノ者ヲシテ舍中ニ滞在セシメ其
技術加拙ニ隨ヒ高船一般普通ノ階級
免狀ヲ附與シ社ノ免狀無キ者ハ乗船
スルコトヲ得ス或ハ船中ノ律ニ違犯スル
者ハ其罪狀ヲ各港一般ニ報知シテ隈ニ
從事スルコトヲ得セシメス若シ不幸ニシテ
風波ノ為ニ洋中ニ溺死スル者アレハ
其妻子ヲ扶持スル方法アリ以テ生

者ノ患ヲ救ス此ノ如ク規律整篤ナルニ
依テ衆人互ニ其業ヲ切磋シテ其苦
ニ從事シ長ハ下ヲ愛シ下ハ長ヲ敬シ
共ニ愛敬スルコト親子ノ如シ是レ歐洲
航海ノ日ニ増月ニ盛ナル所以ナリ然ル
ニ我國未ク此ノ方法ヲ施設スルナキ故
ニ人々進歩ノ目的ナシ依テ其技術ヲ
碌碌セス唯々阿諛シテ以テ分外ノ職
ニ安居シ或ハ船中ノ法則ヲ犯シ故ニ
放逐ストル蚕モ即日他ノ船ニ入テ反テ
登用セラレ其風習波及シ簾耻自ラ迂
遠ニシテ遂ニ船長ヲ輕蔑シ又ハ解

纜ノ日ニ当テ逃亡シ其期ヲ夫ス是
レ其弊害孳テ業ルニ暇アラズ現今
航海會社ヲ設ケ且ツ一般ノ階級及ヒ
罪科ノ印章ヲ出スルヲ御許容アラ
バ自然人々目撃シテ技術ヲ研究
セシ是レ進歩ノ一端ニシテ航海愈
盛大ニ至ラン乎臣盲學菲才何ソ希
志ヲ筆端ニ徹スル能ハス翼クハ不敬
ヲ免ミ微意ヲ洞察シ偏ニ聖慮ノ裁
断ヲ懇願スル所ナリ恐々懼々再拜

古川庄八郎